

アイヌ政策推進交付金事業計画

1 事業名	厚岸町アイヌ施策推進事業
2 事業の種類	(文化振興事業)(地域・産業振興事業)(コミュニティ活動支援事業)
3 事業の目的	地域におけるアイヌ文化の着実な伝承・継承活動やさまざまな形でのアイヌ文化の発信等を通じて、次世代への円滑な継承を図るとともに、文化財の適切な保護・保存(伝承)活動を行うことで、アイヌの人々が民族としての誇りを持って生活でき、その誇りが尊重される地域社会の実現を図り、もって全ての町民が相互に人格と個性を尊重し合いながら共生する社会の実現を目的とする。
4 事業の概要	(1)文化振興事業 ■厚岸かぐら記録媒体デジタル化事業 ○事業実施主体 厚岸町 ○事業の実施場所 厚岸町海事記念館 ○事業の実施期間 交付決定の日～令和8年3月 ○事業の内容と考え方 厚岸町指定文化財である厚岸かぐらは、南部地方の踊りと厚岸のアイヌ民族の踊りとが融合したものであるとされており、過去の演目披露の際の映像及び音源はビデオテープ又はカセットテープで保管しているが、映像等の経年劣化が進んでおり、過去の記録映像等の長期保存は地域の文化を適切に伝承するために重要であることから、長期間保存することができるDVDやCD等に変換し、デジタル化を行うことで、アイヌ文化の保存及び継承を図ることを目的とする。 (2)コミュニティ活動支援事業 ■高齢者(エカシ・フチ)コミュニティ活動支援事業 ○事業実施主体 厚岸町 ○事業の実施場所 厚岸町海事記念館 ○事業の実施期間 交付決定の日～令和8年3月 ○事業の内容と考え方 厚岸町においては、近代以降のアイヌ民族の記録が多く残されておらず、居住するアイヌの人々の高齢化が進んでいるため、アイヌ文化の保存・継承が喫緊の課題となっていることから、厚岸アイヌ協会の高齢者から地域の風習や儀式の記憶などについて聞き取り調査を実施し、その内容について記録・保存して厚岸町郷土館に展示することで、世代間の交流を促すとともにアイヌ文化の保存及び継承を図ることを目的とする。
5 アイヌ施策推進地域計画における記載	4ー1 アイヌ文化の保存又は継承に資する事業 ■厚岸かぐら記録媒体デジタル化事業 ・厚岸かぐらの過去の記録音源及び映像のデジタル化を行う。 4ー3 コミュニティ活動支援事業 ■高齢者(エカシ・フチ)コミュニティ活動支援事業 ・アイヌの高齢者の話を聞き取り、その内容を記録・保存するとともに展示する。

6 事業の成果目標等	
(1)成果目標の達成に向けた工程	(1)文化振興事業 ■厚岸かぐら記録媒体デジタル化事業 過去の記録音源及び映像のデジタル化を行い、アイヌ文化の継承を図ること で、アイヌ文化への興味関心の醸成につながり、「厚岸かぐら同好会」の会員数が増えると考えられる。 (2)コミュニティ活動支援事業 ■高齢者(エカシ・フチ)コミュニティ活動支援事業 エカシ・フチの貴重な経験談等を聞き取り、その内容を記録・保存し、展示することで、アイヌ文化への興味関心の醸成につながり、厚岸町郷土館の入館者数が増えると考えられる。
(2)成果目標、(中間)目標年度(成果目標に対する現状値、及び成果目標の達成見込みについて記載すること)	(1)文化振興事業 厚岸かぐら同好会会員数 (現状値)令和6年度 5人 (中間目標)令和9年度 6人 (最終目標)令和11年度 7人 成果目標は達成する見込み (2)コミュニティ活動支援事業 厚岸町郷土館入館者数 (現状値)令和6年度 1,800人(見込) (中間目標)令和9年度 2,010人 (最終目標)令和11年度 2,150人 成果目標は達成する見込み
(3)成果目標の確認方法	KPIである厚岸かぐら同好会会員数及び厚岸町郷土館入館者数について、実績値を公表する。また、目標の達成状況について検証を行い、改善点を踏まえて計画期間内の事業実施に反映する。
7 地域の概要	
(1)地域におけるアイヌ文化等の現状及び課題	厚岸町においては、16世紀から18世紀にかけて築かれたとされるチャシ跡が埋蔵文化財として27カ所登録されているとともに、明治時代に屯田兵の入植地を調査し適地を探した、アイヌ民族である太田紋助の墓碑が太田地区の報国寺境内に祀られているなど、アイヌ民族の痕跡が多数残されている。 また、「蝦夷三官寺」の一つである国泰寺の住職による記録「日鑑記」には、アイヌ民族と寺院との関わりが多数記録されているとともに、松前藩のアイヌ資料「夷酋列像」には、アッケシ場所を統括していたイコトイをはじめアッケシに関係する5人のアイヌが描かれており、当時のアッケシがこのようなアイヌの有力者を輩出していた地域であったことが広く知られている。さらに、江戸時代の北方探検家の最上徳内は、アッケシアイヌの協力を得てクナシリ・エトロフへの調査を実施したとされていることから、厚岸町は、先住民族であるアイヌ民族の歴史を色濃く残しているまちである。 昭和58年7月には「北海道ウタリ協会厚岸支部」(平成26年4月から「厚岸アイヌ協会」)が設立され、湾月生活館を拠点とする活動やアイヌ民族の慰霊祭である「イチャルパ」を開催するなど、先住民族であるアイヌの尊厳を確立するため、人権・民族に基づくあらゆる障壁を克服し、その社会的地位の向上と文化の保存・伝承及び発展に寄与してきた。また、江戸時代末期にニシン漁で栄えていた頃、厚岸に渡ってきた南部地方の漁師たちによって伝えられた神楽とアイヌ民族の踊りが融合して現在に至っている民族芸能である「厚岸かぐら」の保存・伝承を目的に結成された「厚岸かぐら同好会」は、町民文化祭芸能発表会などの町内の各種催し物で「厚岸かぐら」を披露するなど、アイヌ文化の伝承を図ってきた。さらに、厚岸町教育委員会では、厚岸町郷土館にアットウシやアイヌ細工・マキリの鞘・針入れ・キセル・タマサイなどの民具、厚岸町海事記念館にイタオマチブ(板綴船)を展示しており、アイヌの歴史や文化を学ぶ機会の充実とともに、ア

	アイヌ文化に対する町民の意識向上を図っている。 このように「厚岸アイヌ協会」や「厚岸かぐら同好会」などによるこれまでの取組や、厚岸町教育委員会各施設におけるアイヌ民族に関連する展示品など、町内でのアイヌの歴史や文化を学ぶ機会は相当程度あり、町民の関心は高まりつつあるものの、「厚岸アイヌ協会」や「厚岸かぐら同好会」の会員数の減少や高齢化などにより、文化の伝承・継承活動を行うことが困難になっているとともに、その担い手が減少しており、次世代への円滑な継承が喫緊の課題であるほか、アイヌは文字を持たない民族のため、残されている資料が非常に少なく、現存する資料の効果的な活用と保存が必要である。 さらに、「厚岸アイヌ協会」の活動拠点であるとともに、地域住民の集会施設として活用されている湾月生活館については、その機能を維持するとともに、利用促進を図る必要がある。このほか、民族共生象徴空間とも連携しながら多くの観光客を受け入れるため（民族共生象徴空間の主要施設の一つである国立アイヌ民族博物館には、厚岸町が貸与品としている厚岸湖岸発掘のイタオマチブ（板綴船）1艇が展示されている）、厚岸町海事記念館のアイヌに関するさらなる機能充実を図る必要がある。
(2)施設等の管理運営体制	厚岸町海事記念館は厚岸町教育委員会が管理している。
(3)アイヌ関係団体及び地域住民の協力体制	「厚岸アイヌ協会」「厚岸かぐら同好会」とは常に情報を共有し、意見交換を行っている。また、各種事業に対する支援を行っている。

8 収支予算

(1) 収入の部

区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比 較 増 減	
			増	減
国庫補助金	109,200	2,471,920	0	2,362,720
市町村負担額	27,300	617,980	0	590,680
計	136,500	3,089,900	0	2,953,400

(2) 支出の部

経 費 区 分	本年度予算額 (本年度精算額)	前年度予算額 (本年度精算額)	比 較 増 減	
			増	減
文化振興事業	108,900	3,089,900	0	2,981,000
・文化振興事業費	108,900	3,089,900	0	2,981,000
委託料	108,900	3,089,900	0	2,981,000
コミュニティ活動支援事業	27,600	0	27,600	0
・コミュニティ活動支援事業費	27,600	0	27,600	0
報償費	27,600	0	27,600	0
合計	136,500	3,089,900	0	2,953,400
報償費	27,600	0	27,600	0
委託料	108,900	3,089,900	0	2,981,000